

近畿建設リサイクル表彰	会 長 賞
受 賞 者	株式会社 川嶋建設
所 在 地	兵庫県 豊岡市
受 賞 テ ー マ	仮設防護柵の工夫（L型ガード）により建設副産物（アスファルトガラ）の発生・搬出抑制と鋼材の再利用

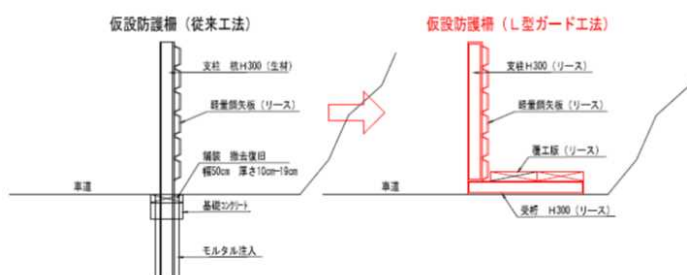
【取組概要】

仮設防護柵において、親杭横矢板式に変わるL型ガード工法を開発、特許を取得し、平成8年からこれまでにアスファルト・コンクリート塊1, 211m³を発生抑制しました。また、L型ガードは再利用が可能であり、15, 491トン分の鋼材を再利用しています。

①アスファルト・コンクリート塊の発生抑制

仮設防護柵の従来工法では、道路上に杭の打ち込み及びコンクリート基礎の構築、且つ既存アスファルト舗装の撤去が必要でした。L型ガード工法は杭の打ち込みを必要としないことから、平成8年からこれまでにアスファルト・コンクリート塊1, 211m³の発生を抑制しました。

仮設防護柵(L型ガード) 標準図



②仮設鋼材の再利用

従来工法の支柱は、コンクリート埋込み部での切断や鋼材への孔開けにより、製品としての再利用ができませんでした。L型ガード工法は、リース材を使用し、ボルト結合であるためリユースが可能であり、これまでに鋼材15, 491トンを再利用しています。

③施工時等の特長

従来工法に比べ、杭打ち作業がないことから、騒音・振動を抑制、埋設物を損傷してしまうといった事故の防止が見込めます。

【評価】

既存の杭打防護壁に代わり杭打ち不要でアスファルト・コンクリート塊を排出しない防護柵を開発し、研究会を組織するなど、全国でも施工できる仕組みを整えていることが優れた取組として評価できる。